

次世代病理検査支援システムの構築

タスクシフト・シェアを考慮して

◎渡邊 広明¹⁾、内野 有子¹⁾、柏木 里沙子¹⁾
富士市立中央病院¹⁾

【はじめに】

2016 年、病理検体取り扱いマニュアルが発行され、同年導入した当院の病理検査支援システムは同マニュアルを踏襲した仕様とした。病理検査における検体取り違い防止対策に大きく貢献し安全な業務遂行に役立っている。今回我々は電子カルテシステムおよび病理検査支援システムの更新時期を迎えるにあたり、病理部門に求められているタスクシフトを考慮した次世代病理検査支援システムの導入を検討しているので報告する。

【病理システム概要】

病理検体取り扱いマニュアルを踏襲した現行システムをベースに、タスクシフトで推進されている病理診断書のダブルチェックのシステム化を検討している。所見の下書き作成（生検材料標本、免疫および特殊染色）では、技師の所見入力欄を設け病理医に提出するシステムを構築する。技師の所見と病理医の所見の一致率を算出し技師個人の力量評価を行う。画像解析システムによる免疫染色等に対する計数・定量判定結果についても所見欄に入力する。

【結語】

厚生労働省から発出されたタスクシフト・シェアの推進事業は臨床検査技師の中でも病理部門に関する事項が多く、より高度な知識、経験が求められている。新規業務に対する人材育成、品質・精度保障について次世代病理検査支援システムを駆使し役立てていきたい。

連絡先 富士市立中央病院 臨床検査科
0545-52-1131